

# 平成19年度 第1回 環境審議会 会議概要

日時：平成19年7月25日（水）午後1時30分から4時00分

場所：穂高支所 2階南会議室

出席者：環境審議会委員16名出席（2名欠席）

環境基本計画策定員15名出席

事務局5名出席

傍聴者なし

## 議事

1. 環境基本計画の策定経過及び今後の日程について
2. 環境基本計画素案についての策定委員との意見交換
3. 前回議事録の確認
4. その他

## 議事録

### 1. 環境基本計画の策定経過及び今後の日程について

事務局より経過概要及び今後の日程を説明  
策定委員会千国会長より詳細な経過を説明

### 2. 環境基本計画素案についての策定委員との意見交換

（分科会毎に座長が概要説明し、その後、その分科会についての意見交換を行った）

#### ●第1分科会 自然環境

策定委員小野座長が概要説明

#### 質疑

審議委員 里地に田園が出てこない。

もう少し充実できないかという感想です。

審議委員 山岳という表現で（市民が）わかるのかと思う。

山岳には高山から亜高山とある。用語の説明がほしい。

森林は700メートルから1500メートルを指していると思う。

広葉樹など自然植生に近づける形の植栽をいれてほしい。

自然植生からの視点で里地という表現はどうか。

昔の堰に戻そうとすると（水が豊かであった時点への復帰を期待するが）維持管理が困難となるが、そこをどう考えるか。

動植物の項では貴重種の意味（どのような条件のものか。）

外来種もいろいろある。全てを悪者に捕らえないで共存と悪者を分けたらどうか。

文化財の委員をしている。文化財などでは横の連絡はどうしているか。

審議委員 ボランティアにお願いすることが多く出てくる。

高校、大学生など対象を具体的に出したらどうか。（年配の方だとなかなか意欲を維持するのが大変）

審議委員 里地の荒廃のところで、水田の涵養とある。地下水を意識していると思う。

水資源対策でも地下水を安心して通年利用できることを考えている。

地下水涵養の基は水田と考える。

冬水たんぼや休耕田を利用した涵養を取り入れてほしい。

- 審議委員 高山帯から里という分けだが、わかりやすいイメージでマップを作ってほしい。  
水辺のマッピングをして、問題がどこにあるかわかりやすくできないか。  
高山帯にも人の手が入り変わってきている。この点を整理して、原因など整理したらどうか。  
人間活動とサルなどの関係をまとめたらどうか。
- 審議委員 間伐材利用は、一般市民は使う方法などわからない。  
一般市民が利用しやすいような行政のコーディネートを付け加えたらどうか。  
(水辺環境の水質の汚染で) 農薬が出てくる。農薬というと市民の多くは除草剤も含むと思う(連想すると思う)が、これを読むと除草剤とは思わない人もいるかもしれない。影響があると思うので、除草剤を明記してもらったほうがいいのではないかと。  
策定委員 「田園」について、自然分野からとらえたので里地とした。自然分科会だけでは語れないが、議論していきたい。  
山岳について、切り分けの仕方であり自然科学的な分けはしていない。  
言葉の定義については現時点では入っていないが、今後入れていく予定をしている。  
「ボランティア」について、高校生の十字軍等についても具体的に入れていきたい。以前「かきもぎ隊」があったが、話題にならなくなると下火になってしまった。高校生に限らず、子どもからお年寄りまで幅広く参加できるようなボランティアを実現したい。  
マップについて、配布した素々案の中には入っていないが、これより前の段階で基礎情報として入る予定である。  
間伐材利用について、調整したい。  
農薬と除草剤については、委員会の中でも議論となり、除草剤という表記を入れることになった。  
冬水田んぼについて、農業とも調整しながら入れ込んでいきたい。
- 事務局 横の連携について、行政の庁内会議が果たしている。
- 地方事務所 行政との横の連携、また、行政間の横の連携もある。  
長野県でも貴重種の定義がある。情報を活用されたい。
- 審議委員 こうあったらいいといった、願いを先に書いてほしい。  
小学校の高学年でもわかるような、わかりやすい言葉で書いてほしい。

## ●第2分科会 景観・まちづくり

策定委員宮崎座長が概要説明

### 質 疑

- 飯沼委員 緑化についてだが、神社の森を自然の状態に戻すような取り組みを、各地区へ働きかけていただきたい。  
一斉清掃によって、林床植生がなくなっているところもある。そのような項目を入れていただきたい。  
また、地域性について「在来種」ということばが気になる。  
「自生種」の方が良いのではないかと。(野菜のイメージが強い)  
屋敷林について、維持していくのは費用もかかり大変。処理も野焼きをしなければならず大変だ。  
本棟づくりと萱の屋根、ケヤキの屋敷林が安曇野の基本的な景観。ぜひ維持していく方法を考えてほしい
- 審議委員 木を植えるのはいいが、その後10年位経ったときに、維持管理をどうするかが問題となる。  
剪定するとその処理が庭師の費用よりもかかったりする。  
管理できないから伐るというケースも多いので、維持管理、特に剪定枝の始末について入れていただきたい。
- 平林委員 公園について、既存公園の維持という言葉を入れてほしい。
- 審議委員 公園について、既存公園の再整備だけではなく、公園の維持についても入れていただきたい。  
市民や事業所の項にも、「協力する」旨の記述を入れていただきたい。

- 審議委員 安曇野といえば北アルプスと屋敷林。行政の取り組みもぜひ期待したい。  
P2-7「水郷の里」というと明科、穂高のイメージが強い。三郷や堀金をイメージするような言葉が入らないか。
- 審議委員 基本計画にあまり細かいものがたくさん入ると、部分的になったり、混乱したりするおそれがある。  
基本的な方向性のみにとどめておいた方が、すっきりして「安曇野の環境を将来どうしたい」ということがはっきりするのではないか。  
いろいろな意見をすべて盛り込むのはどうか。安曇野らしさをアピールするようなところに重点を置けないか。
- 審議委員 公園のところ、作った以降だれがやるか。遊具、水の管理など誰がやるか具体的にしてほしい。  
公園の管理をどうしていくか基本的なものをいれてほしい。
- 審議委員 まちなみ・まちづくりについて、新たに開発された住宅地には道路ができるが、たいていは袋小路になっている。  
道路はまっすぐ通過できるような道路にしくことを考える必要がある。また、看板について、インターを出て穂高へ向かってくると看板が非常に目につく。  
それとノボリ。観光客がいいと思っているとも思えない。規制できないだろうか。  
かつての松本市は、市内のどこからでもアルプスや美ヶ原が見えたが、今は高い建物が多くなって窮屈になった。  
安曇野はまだ高い建物が建っていない。今の眺望の良い環境を守るため、建物の高さの規制も考えておいた方が良いのではないか。  
それから緑化について。屋敷林の伐採について苦労しているという話があったが、草刈りをしたときに堆肥にできないものはごみとして出すしかない。  
拾ヶ堰沿いの桜並木は改修後なくなった。安曇野の河川や堰にも桜並木があると良い。
- 策定委員 今は策定の経過（途中）です。まとめは組み替えていきます。  
神社や屋敷林は地域の文化財と考えている。  
社寺林について、県の補助は昨年度で打ち切られたが、市で独自の補助ができないかを入れない。  
緑の維持、管理、廃棄は考えていく。  
公園は、できたものを維持管理していくために、作る段階から市民参加を考えている。  
看板等は行政計画…  
土地利用のところ、高さは盛り込んでいきたい。

### ●第3分科会 資源・リサイクル・エネルギー・生活環境

策定委員二木副座長が概要説明

#### 質 疑

- 審議委員 共働のまちづくりが大切。  
老人は分別が苦手なので、支援してほしい。  
ポイ捨て防止が課題である。取り組みの検討をお願いする。
- 審議委員 特に市民の分野はわかりやすく具体的な表現にしてほしい。  
ごみは細かいところまで記載してほしい。  
ごみを出さなければ儲かるといったシステムはどのような考えがあるか。  
具体的に、あったら、例えば、事業系と一般ごみの分別は料金設定できないか。
- 審議委員 3-11のところの地下水について、人工培養しても良いから検討してください。  
3-15の新エネルギーのところ、地中熱もヒートポンプを使うことにより重油の4分の1で利用できる。入れてほしい。
- 審議委員 カタカナ表記など60歳以上には抵抗があると思う。表記の検討をお願いする。  
行政の案内も簡単にしてほしい。（細かいところまで読めない。ポイントの啓蒙を）

- 審議委員 土地造成によるアレチウリの発生など、土を動かすとリスクが発生する。  
全般に、行政と住民が連携するシステムを希望する。
- 策定委員 ご指摘を受けた点については検討したい。  
市民向けの項目については、再度見直しをしたい。  
地熱についても 2 日前に議論をしたところ。地下水の涵養についても他の分科会と調整し、入れたい。  
「ごみを出さなければ儲かるシステム」：事業系の一般ごみはすべて燃やす方向になっているが、それらを分別した方が得だという制度はどうかと検討してきた。  
カタカナ表記については、見直しをしていきたい。  
土を動かすことのリスクについては視点を欠いていたので、分科会で検討したい。

#### ●第 4 分科会 農林水産業

策定委員牧野座長が概要説明

#### 質 疑

- 審議委員 森林保全について、農業で資源循環型農業がうたわれているが、昔は森林と農業の関連で資源循環が行われていた。  
自然環境でも出てきているが、里山が荒れてきていることにつながっている。行政の中で「林道」が出てきていない。  
「林道」がないと、森林の整備、維持管理などができない。林道の整備と維持管理について入れていただきたい。
- 審議委員 農業は安曇野の基礎である。  
例えば、水田 10 ㍓の収支は、収入で 13 万円、支出が 15 万円で、2 万円の赤字だ。やるだけ赤字になる。また、高齢化の現実がある。  
コストや人材からの検討をお願いします。  
長期展望からまた、自然を生かした農業を検討してほしい。
- 審議委員 環境の目的を作ったらどうか。大きな目標を作りそこに向かっていったほうがいいのか。例えば、川の水が飲めるようにするといった大きな目標を作り、取り組みの順位を定めていけばどうか。
- 策定委員 検討します。  
環境と農業の接点をどうするか。折り合いを付けて生きたい。  
アプローチしていきたい。

降旗会長 審議会を 10 年やっているが、策定委員と直接意見交換をするのは初めてのこと。ご苦勞に感謝するとともに、今後もよろしくお願ひしたい。

策定委員会イベント実行委員長より 環境関連イベント報告 →特に質疑等はなし

百瀬委員よりドイツ視察報告 (プロジェクター使用)

### 3. 前回議事録の確認

- ・前回、委員より質問のあった下水道普及率等について事務局で回答
- ・委員より、より使いやすい環境に関するフリーダイヤルの設置について意見があり、事務局として今後、検討していくとした。

### 4. その他 特になし

会議終了後、穂高広域組合 NEDO 事業 (生ごみ等のメタン発酵システム実験事業) の視察実施